

(美濃市)

令和元年度事例

【地域の概要】

- 美濃市は、岐阜県の中南部で、名古屋市から40km、岐阜市から22kmの位置にあることや、高速道路網の整備により、工業化が進んでいるなか、農業面では農家数の減少、兼業化、農業従事者の高齢化等いわゆる離農、脱農者の増加が進んでいる。
- 美濃市においては平地と中山間地が混在し、それぞれの地域によって農地の利用状況や営農類型が異なっているため、地域の実態に応じた取り組みを推進し、それに向けた対策の強化を図ることが求められる。
- 中山間地では遊休農地の発生が懸念されていることから、その発生防止・解消に努めていく一方、平地では土地利用型の稲作が盛んで、担い手への農地利用の集積・集約化においては、農地中間管理事業を活用しながら取り組んでいく必要がある。特に、中央地区は県下でも有数の種子米の生産地であることから、種子組合の組合員を中心とした担い手の確保が求められる。

取組開始前の状況や課題

◆地域の課題

- 農家の高齢化、後継者不足による耕作放棄地が点在。
- 新規就農者がいない。
- 山間地では、鳥獣被害が多く、耕作がしにくい状況であり、農地の荒廃化が問題になっている。
- 農業委員会の認知度が低い。



山間地域の農地の現状

取組内容

- ◆市内全域において、地域の耕作者や農地所有者を対象に農業委員・最適化推進委員の戸別訪問によるアンケート調査の実施。(令和元年11月末現在:103人1,122筆分の調査結果が得られた。)
- ◆担い手が耕作している状況を地図化をし、またその近郊を年齢別地図化した。



年齢別の地図での議論

今後の展開と方向性

- ◆集積・集約化が可能な地域を選定し、「人・農地プラン」における話し合いのできる資料を作製していく。
- ◆集積の可能性がある土地に関して重点をおいてのアンケート調査の実施。
- ◆B分類(再生利用困難)に区分された荒廃農地については、現況に応じて「非農地判断」を行い、守るべき農地を明確化していく。